

# たまいたま 川柳



平成29年(2017年)  
10月号 (No.695)

日川協加盟

## 巻頭言

神頼みとくじくじ

願法みつる

先号では、人の群に交わることで神を知り孤独を知るといふ話だった。引例はカソリックの神であったが、日本固有の神道での神との接触は如何なものであろうか。目に触れ・折に触れて、存在が知れる大小様々な神社から、祠や社のように目立たないモノまでである。それら無数の「神の社」に、多くの神がどの様な姿・形で居られるのかということも素朴な疑問である。自然神との触れ合いは、それを意識したときに感得するモノだろう。しかし人間神を祀る神社に、ただのつそりと近づいて良いモノなのか。どの様な挨拶をしてお近づき願えるモノなのか。孤独を覚知する身としては、気になる疑問である。

書籍に依れば、神はいつも神社に居るわけではない。というところらしい。つまり常駐して居ない。祭祀をする一定時間だけ降臨される。だから神主に依頼して神のお出まし願うか、個人的にお詣りしたときは拍手や鈴を鳴らして招来する必要がある。そして何事かを神に語りかけた後も、しかるべくお帰りを願うのだそうだ。つまり参拝には作法があるということらしい。

川柳をモノするのに「神頼み」したいときなどの為、個人的な祝詞を考えて見るのも面白い。

## 日日是好

願法みつる

オトコ神オンナの神もイクサ神

天と地と海山があり人は蟻

右の乳左の乳も母の乳

損もした得もしたから夜の酒

性善と性悪がいて交差点